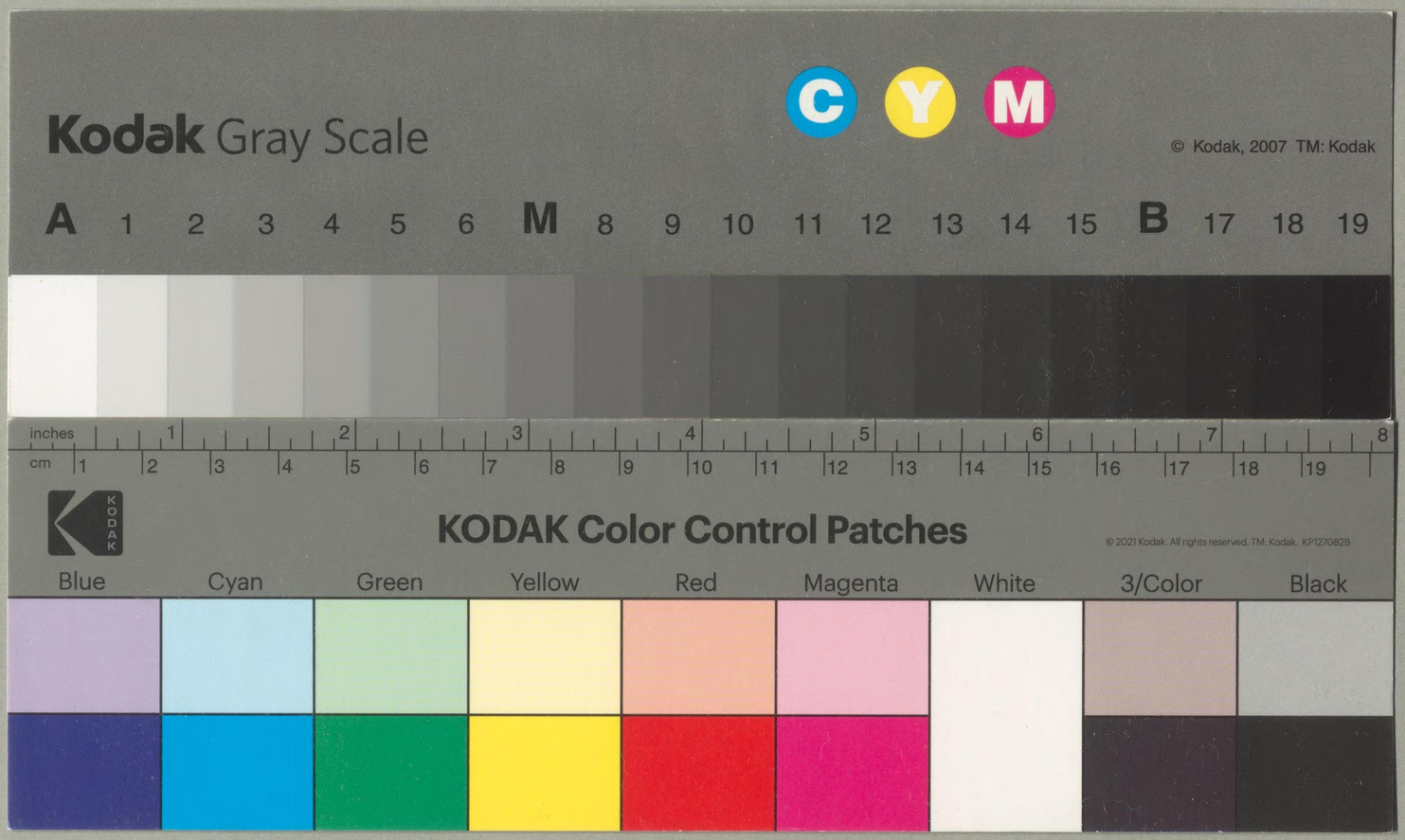
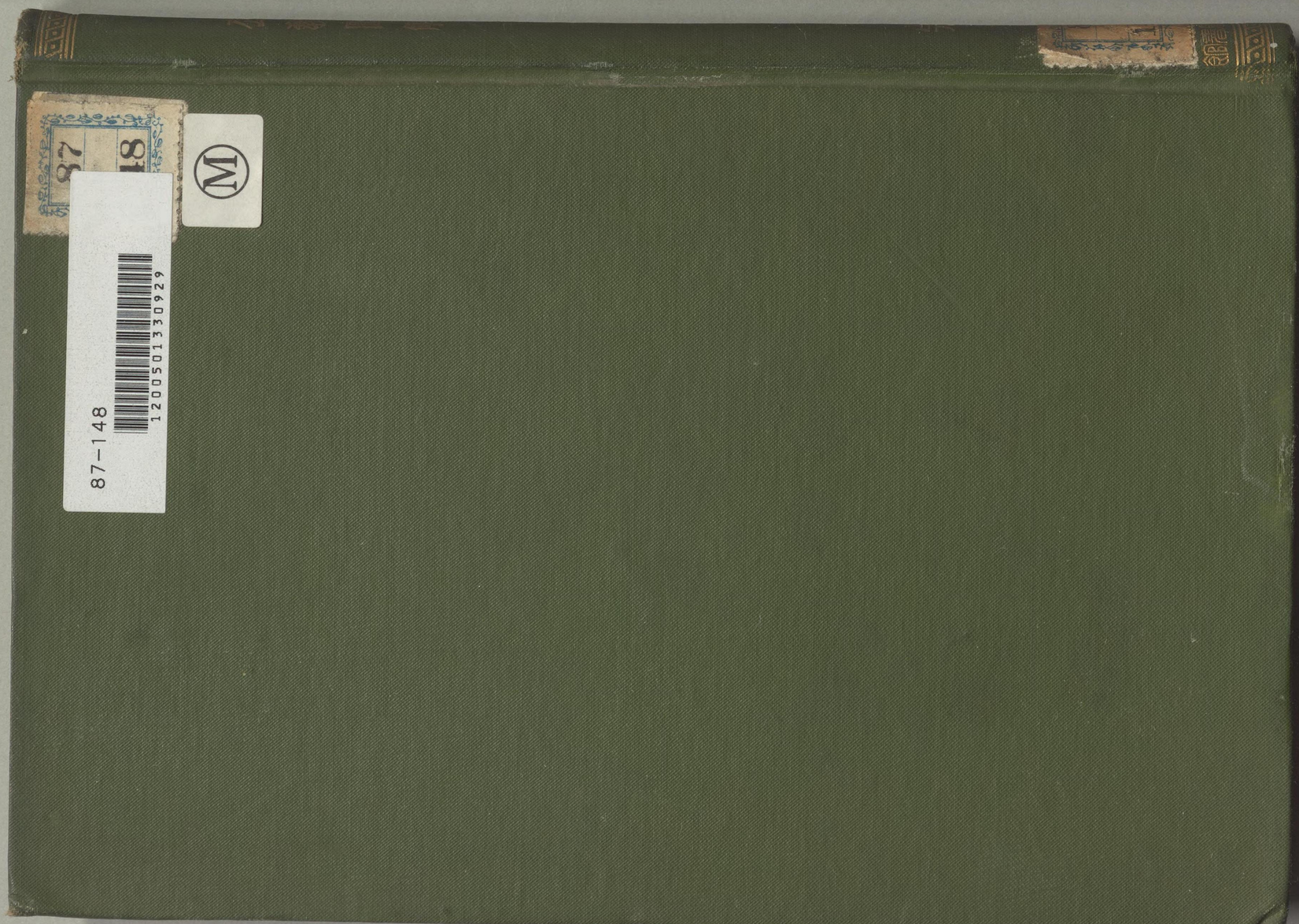



87
48
87-148
12005013309 29
M

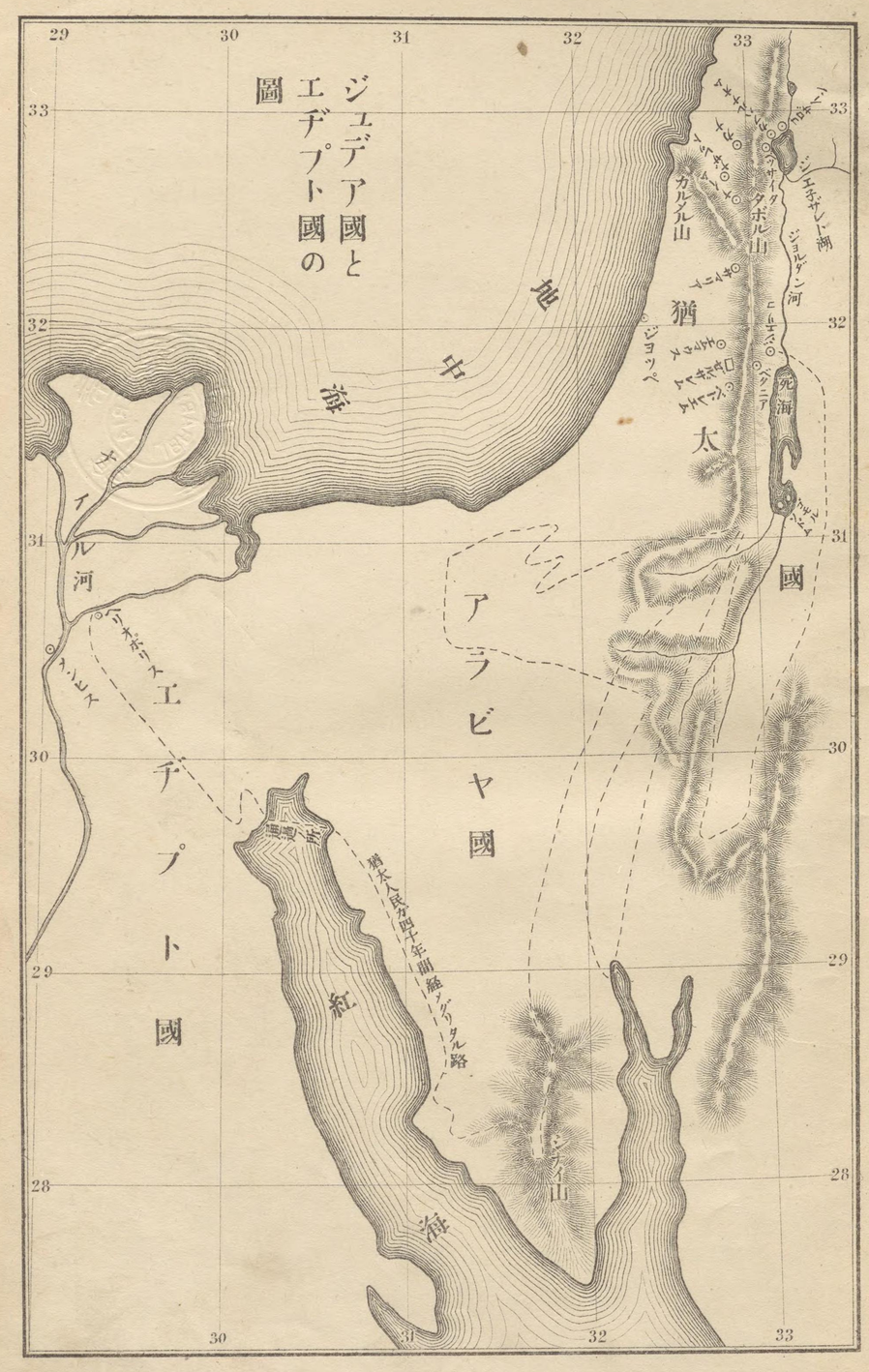
公教圖解 全

耶蘇基督降生一千九百年

東京大司教伯多祿瑪利亞　認可

緒言

凡孰レノ教會ニ在テモ文字ヲ解セザル老幼婦女子ニ公教ノ要理ヲ授ケンコト甚ダ困難ナル業ニシテ彼等ニ教ユルニハ耳ニ聽カシムルト同時ニ目亦タ之ヲ視セシムルノ方ヲ以テセバ頗ル便益アルベシトハ余ガ年來布教ノ實驗ニ於テ感ズル所ナキリキ此ニ於テ佛國有名ノ教畫五十有余圖ヲ擇ミ之ヲ熟練ナル小川氏ノ寫眞版ニ附シ極メテ通俗ナル言語ヲ以テ之ガ解說ヲ試ミタリ然レドモ素ト是レ抄略ニシテ耶蘇基督ノ事蹟ヲ除クノ他ハ最モ大要ヲ摘記シタルニ過ギス其猶太國及耶路撒冷府ノ兩圖ヲ加ヘタルハ此書ニ依テ以テ教義ヲ授ケントスルモノハ參考ニ供センノ婆心ノミ若夫レ此書ニシテ果



シテ目的ノ何分ニテモ達スルヲ得バ余ノ望ヲ滿タスニ於テ足レリトス

本書引用スル所ノ聖書特ニ基督ノ金言ノ如キ只其意ヲ採リタルニ過ギス是レ解シ易カランコトヲ主トスルノ止ムヲ得ザルニ出ヅ看者諒セヨ

此書ヲ上梓スルニ當テハ靈父ルモアヌ君及堀川柳助君ガ印刷製本ニ其他何吳レトナク諸多ノ手數ト注意トヲ煩ハシタルコト及林壽太郎君ガ余ノ爲ニ執筆ノ勞ヲ取ヲレタルコト共ニ余ノ深ク謝意ヲ表スル所ナリ

一千九百年十二月中浣

ドルワルド、レゼー識

公教圖解

目次

◎繪畫の部

圖畫名稱		說明所在頁數
●第一圖	三位一體	壹頁
●第二圖	天地を造り給ふ	六頁
●第三圖	アダムとエワ樂園より追ひ出さる	七頁
●第四圖	ノエの大洪水	九頁
●第五圖	ノエの一家族助かる	十頁
●第六圖	バベルの塔	十一頁
●第七圖	三天使アブラハムに現はる	十二頁
●第八圖	モイゼス水より救はる	十三頁
●第九圖	エジプトの軍勢江海に溺る	十五頁
●第十圖	シナイ山に十誡を與へらる	十七頁
●第十一圖	ジエルザレム都の圖	十八頁
●第十二圖	預言者エリヤス天に揚げらる	十九頁
●第十三圖	イエズ、キリスト	二十一頁
●第十四圖	天使の御告	二十三頁
●第十五圖	御主の御誕生	二十四頁
●第十六圖	三王來朝	二十六頁
●第十七圖	エジプト國に遁れ給ふ	二十七頁
●第十八圖	十二才の時御堂に見出され給ふ	二十九頁
●第十九圖	イエズ、と赤子	三十二頁
●第廿圖	山上の御說敎	三十四頁
●第廿一圖	金持と貧乏に就ての御說敎	三十五頁
●第廿二圖	孝子の改心に就ての御說敎	三十七頁
●第廿三圖	貧しきやもめの施し	三十九頁
●第廿四圖	死者を蘇らせ給ふ	四十頁
●第廿五圖	イエズ、海上を步み給ふ	四十二項
●第廿六圖	イエズ、榮光を顯し給ふ	四十三頁
●第廿七圖	ラザルを蘇らせ給ふ	四十五頁
●第廿八圖	ゼツマニの森に悲み給ふ	四十八頁
●第廿九圖	茨の冠を被らせ給ふ	五十頁
●第卅圖	イエズ、三度倒れ給ふ	五十一頁

●第卅一圖　十字架に釘けられ給ふ…五十二頁
●第卅二圖　十字架の上に死し給ふ…五十三頁
●第卅三圖　葬られ給ふ……五十四頁
●第卅四圖　御復活し給ふ……五十五頁
●第卅五圖　御弟子に現はれ給ふ……五十六頁
●第卅六圖　御昇天……六十頁
●第卅七圖　人間の死を視て悔ひ改む……六十一頁
●第卅八圖　煉獄……六十五頁
●第卅九圖　聖靈降臨……六十六頁
●第四十圖　聖公會……六十八頁
●第四十一圖　肉身の復活……七十一頁
●第四十二圖　モイゼス十誡を示す……七十五頁
●第四十三圖　聖き御家族……七十八頁
●第四十四圖　アベル其兄に殺さる……八十頁
●第四十五圖　邪淫の罰……八十二頁
●第四十六圖　偸みの罰……八十五頁
●第四十七圖　イエズ、ピラトに裁判され給ふ……八十六頁
●第四十八圖　イエズ、洗禮を領け給ふ九十五頁
●第四十九圖　堅振……九十六頁
●第五十圖　イエズ、聖體を定め給ふ……九十七頁
●第五十一圖　悔悛……百　頁
●第五十二圖　終油……百二頁
●第五十三圖　品級……百四頁
●第五十四圖　イエズ、カナの婚姻に與り給ふ……百五頁

◎說明之部
●第一部　信ずべきこと
○使徒信經の說明……一頁ゟ七十三頁迄
●第二部　守るべきこと
○天主の十誡の說明…七十四頁ゟ八十九頁迄
○聖會の六誡の說明……九十頁ゟ九十二頁迄
○罪のことの說明……九十二頁ゟ九十三頁迄
○秘蹟のことの說明……九十四頁ゟ百七頁迄
目次終

第一圖

小川一眞製版印刷

三　位　一　体

使徒信經第一條　我ハ天地の創造主全能の父なる天主を信ず

公教圖解

◎第一部　信ずべきこと

○使徒信經

第一條　我は天地の創造主全能の父なる天主を信ず

何の學問を調べても神が有るといふ證據は澤山あるが神が無いといふ證據は一つもない、その無ければならぬ神さまは何んなものでありませう、それは限りのたらふかといふに、それは限りがないものであります、ですから時といふことに就ても限りが無い、何千萬年前から始まつて何千萬年後には無くなるといふやふなことはないのです、依て神さまには始も終もありません、又處といふことに就ても限

第　二　圖

天　地　と　造　り　給　ふ

りが無い彼方に居らしやるか此方に居らつしやらぬといふことはない、天にも地にも何處にも神さまの居らつしやらぬ處はありません、又御智恵も其通り限りがないからお知りなされぬことは何もない、過去のことでも、現在のことでも、未來のことでも、人の心の底に思ひ考へ望むことでも一々皆御存です、又御力も矢張限りがないから出來ないことはない、何も無いところから、萬物をお造り出されました、大工が家を造り仕立屋が着物をつくるなどは、之は本當に造るではなくて組立てるのです、神さまのお造りなされたは之とは全然差ふ、何も材料が無くてお造りなされたのです、

又限りが無いから心配や悲苦みなどは少しもなくて只幸と樂ばかりであります、又限りないものですから決して形がないです、何ぜなれば形があれば何れほど大きくても限りが有るからです、ですから神さまは繪に畫くことは迚も出來ない、けれども人の目に感じさせる爲に止むを得ず何かの形を借りて繪に現はすのです又限りないものは二つあることは出來ませんから神さまは一つです、之を一體といふ、此御一體の神さまは前いふ通り天地萬物をお造りなされ、又始終支配なさるから萬物の本原で萬物の主たといふことを表はす爲に天主と名けたのです

天主さまは御一體たといふても、其中に別々な御もの

が三つある、之を三つのペルソナといひます、其三つは聖父と聖子と聖靈といふて何れも皆な天主さまです何れも皆な同じ御德です、依て前後、大小、上下などの差はありません、けれども亦た三つの神さまではない、其三つを合せて御一體の天主様といふのです、是は人間の智惠で知れることではありませんが、天主の御啓示によつて知つたのです、この三つのペルソナを繪に現はすは無理なことですが分り易い爲に假りに形を以て表したのが第一圖であります、三方長さ同じ三角が一つの形を成す如く聖父と聖子と聖靈が一つの神であるのです、其中に老人の形が聖父で十字架に掛り給ふイエズ、キリストが聖子で、白い鳩が聖靈です

第　三　圖

アダムとエワ樂園より逐ひ出さる

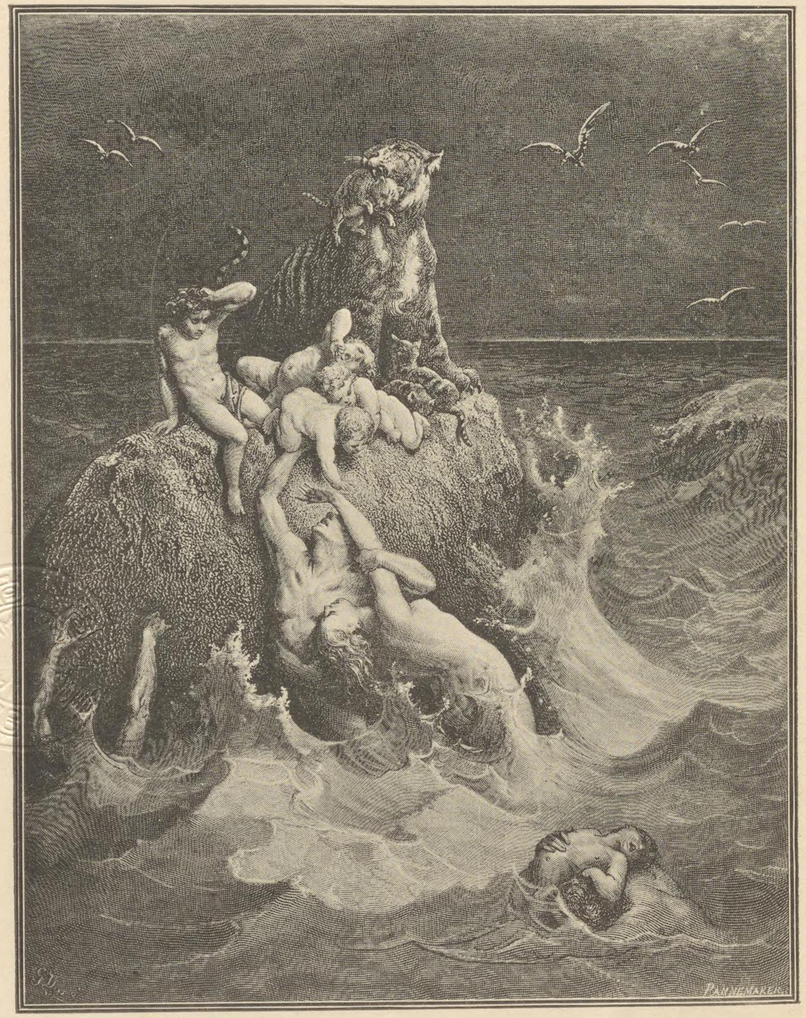
舊約聖書中にこれをかすかにお告げなされた、後の第七圖に天主は三人の天使の形を現はし給ふたなども其中です、又新約聖書には明かにお告げなされました、即イエズ、キリストの洗禮を領け給ふとき第一圖の右の上にある通りでありました委しくは後に釋いてあります、又圖の左の上にあるはイエズ、キリストが御復活後使徒等に現はれて汝等萬國に行き信ずるものに聖父と聖子と聖靈の名に因て洗禮を授けよと仰せられた所であります、

限り無いものは天主ばかりで其他のものは何でも皆限りあるものです、それゆゑ元始には天主の外何も無つたが、其限りない御憐にようて御自分の幸樂を、他に

もお與へなされたい聖慮から萬物をお造りなされ、そ
ふして一番初めに澤山の天使を造つた、それは空の星
よりも多いと書いてある、其天使は人間よりも優れて
智惠と自由の德を具へた形のない目に見えぬものです
之を矢張繪に畫けないが人の目に感じさせるために第
三圖第七圖にある通り書いたのです、何ぜ翼を着けた
かといふに、これは天主の使でそのおん告げを鳥のや
ふに早く人に知らせるといふことを表はしたのです、
此多くの天使の中凡三分一は傲慢の罪で天主に背き地
獄に墮されました之を惡魔、魔鬼、また鬼ともいひま
す、
天使を造つて後天主は形のあるもの即ち星太陽月地球

第二圖

第四圖



ノエの大洪水

なぞを無い所からお造りなされた、けれぞも一度に造つたのでなく、六度の順を以てお造りなされました、第二圖を御覽なさい、老人は天主で之は永遠を形はし六つの輪は六度の順を現はすのです、一番上の輪は光を造り第二の輪は陸と海を分け第三の輪は草木などの總ての植物を造り第四の輪は太陽月などを造り第五の輪は空に飛ぶ鳥水に棲む魚などを造り第六の輪で總ての獸また最後に人間二人を造つたといふ順序を表はしたのです、

斯く天使や形あるものを造つて一番のちにアダムといふ男エワといふ女の二人をお造りなされた、之は今から見ると凡八九千年前のことです、人間は天使のやふ

に智惠と自由の德を具へて居る形のない又終りもない靈魂と、禽獸のやふに形ある肉體とがあるものです、この人間の先祖なるアダムとエワが造られたときに置れた所は難儀も苦も悲も心配もなくて幸と樂ばかりある美しい花園の中でありました、此花園を樂園といひます、所がアダムとエワは造られて後間もなく傲慢の罪を犯して天主に背きました、それゆゑ二人は直に天主の愛を失つて智惠は愼み情は乱れ、現世に於てはさまざまの難儀、苦勞、心配、悲みなどを爲なければならず、其うへ病氣に罹つたり死んだり、又來世に於ては地獄に墮ちて終りなく苦まなければならぬといふ二つの罰を受け、立所に樂園から追出されました、第三

第五圖

ノエの一家族助かる

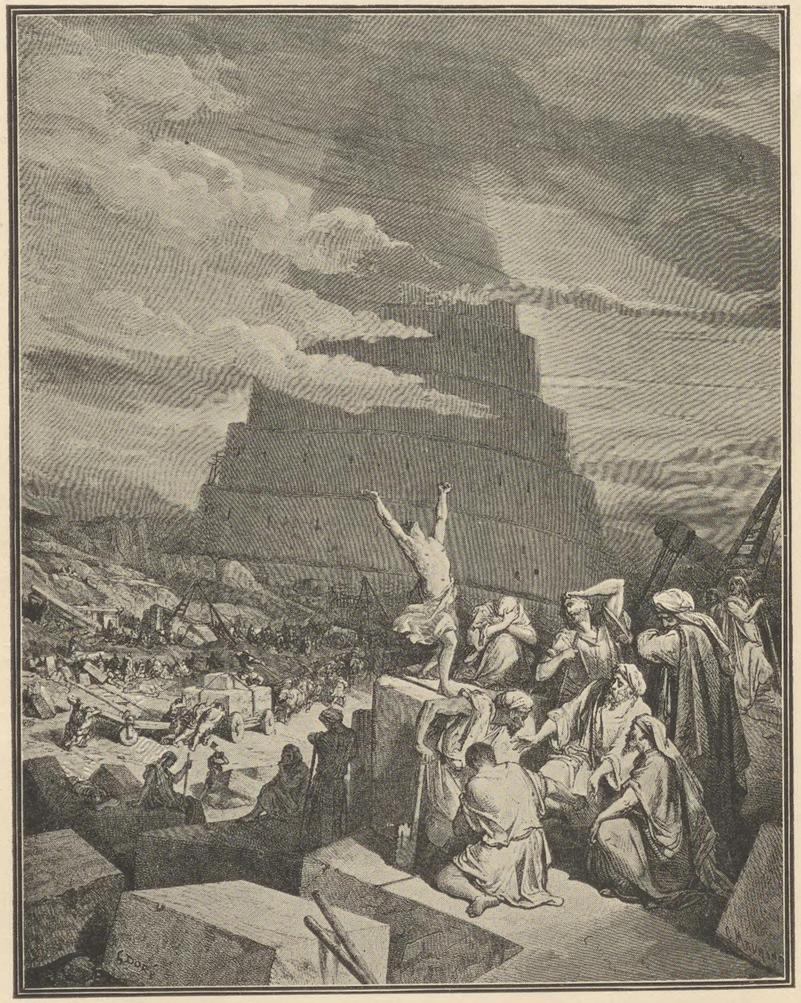
圖は二人が樂園から追出される所で、二人は恐れ悲みながら大なる難儀苦みのある世界に入ります、又天主は再び樂園に入れぬやう火の刀を持つて居る天使を其入口に置いたと舊約聖書に書いてあります、又彼二人の左の方には猛り怒るところの虎が見える、之は人間が天主の權に背いたから人間の下なる獸が猛くなつて人間に逆ふやふになつたことを表するのです、然しながら限りない憐みある天主は人間を其まゝ捨て給はず后に救主をお遣し下さるといふ約束をお立てなされました之が一番はじめの豫言であります、斯くアダム。エワの犯した罪を源罪といふて其罪や罰は子孫なるわれ〳〵人間に傳つたのです、早くいへば人間

は天主に勘當されたものです、斯やふな罰を受けても
アダムの子孫は一向改心しない却て益悪に成つたから
アダムより凡千六百五十年後にノエといふ善人の一家
族の他人間は勿論其他の生物は皆な大洪水で滅ぼされ
ました、第四圖を御覽なさい人間や虎なぞが未た僅か
ばかり水より出て居る高い山の頂上に助からふと思つ
て一生懸命に匐ひ上つて居る、何と恐いことではあり
ませんか、

第五圖

其時ノエ一人丈が善人であつたから天主は彼に大船を
造ることをお告げなされ、ノエは其お告げに從つて其
妻と三人の男子其三人の妻合せて八人、其他禽獸一番
づゝを船の中に載せて助りました、第五圖は洪水が

第六圖



バベルの塔

漸く退いて山の頂上が現はれノエの大船がアララット山に着いた所です、此時ノエは地の樣子が何んなにつたか見たいと思ふて、船の窓を明けて鳩一羽放しました、御覽なさい人間や獸なぞが死んで碌々して居る有樣は凄いことではありませんか、

其後人間は大洪水の天罰を忘れて惡に成り、天主の代りに僞の神を立てゝ拜むた、大洪水から凡百五十年經つたときノエの子孫は大層殖えて最早一所に揆むことが出來なく成つたが、其四方に分れる前に彼等は傲慢の心で天に登るほどの高い塔を建てたいと思ひ第六圖にある通り建て始めました、すると天主は其傲慢心を罰する爲に、彼等の言語を亂して通じないやふになさ

第七圖

れました、彼等は言語が亂れて通じなくなつたから據なく塔を建てる普請を停めて四方に分れ思ひ〳〵に國に往き人間が世界に廣がつたのです、斯く言語の亂れた所から此塔をベブレヤ語でバベルと名けた、それは亂れるといふ意味なのです、

人間がます〳〵惡になり、天主を忘れて日月星畜類などを神として、此僞の神を拜むた、斯やふに人間が眞の神さまを忘れて來ましたから、大洪水より凡五百年後天主はアブラハムといふ聖人をお選みなさつて眞の教を傳へさせました、それで人間の形で現はれる天使を以て時々色々なことをお告げなされた、第七圖にあるのは其中の一つで、三個の天使がアブラハムに現は

第七圖

三天使アブラハムに現はるる

れた所です、此時のお告はアブラハムから大なる民が出る、其民より世界の人間に大なる惠みを與へ萬民を助けるものが生れるといふ御約束でした、此アブラハムより出る大なる民といふのが猶太の民のことです、又其時第四十五圖に御覽なさる通り、邪淫の罪で腐つたソドム、ゴモルといふ二つの都邑を火で亡ぼすといふ御告をもなされました、

天主の御約束の通りアブラハムの子孫は大層に殖えて來たとき、大饑饉があつて、その爲にエジプト國に移りました、エジプト國王は始めには能く猶太の民を助けましたが、凡二百年經つて後に其民が餘り殖えるのを見てエジプト國王は猶太人に生れる男子は總て之を

第八圖

モイゼス水より救ふる

殺して一人も育てよはならぬといふ布令を出した、然るに一猶太の婦人に産れた男子は其容貌がなか〳〵美しくて之を殺すを本意なく思ひ、お布令に背いて三ケ月の間隠して育てましたが、最早隠し切れぬやふになつたから、葦を以て一つの籠を造り之に瀝青を塗り、子を其中に納れ國王の女が度々水を浴びに來く所のナイル河の岸の葦の中に置き、其姉が隠れて何うなるかと窺つて居りました、すると恰度國王の女が水を浴びに來て葦の中に籠のあるを見て、其侍女をつかはして之を拾はせ見るに、中には嬰兒の泣いて居るを見て哀れに思ひ、叫んで之は猶太人の子だといふた、時に隠れて居つた姉は國王の女に向ひ我行て此子を育てる乳

母を捜さうといふた、國王の女が之を承知したからその子の母を連れて來ました、これから其母が乳母となつて之を育て成長してから國王の女に出した、國王の女は之を自分の子としてモイゼスと名け宮殿のうちに育てました、モイゼスとは水より助かるといふ意味です、此モイゼスが成人して後天主は之を猶太の民の主長をいたしました、第八圖は右の話しの所です、

其后天主はエジプト國へ種々な罰を降したから國王は猶太の民が立ち去ることを許した、依て猶太の民は皆連立てエリオポリス町の近邊から出て猶太國の方に往きました、國王は猶太の民が出ると忽ち心が變つて、多くの軍勢を遣り其あとを追せた、殆んど追ひ付かれ

紅勢軍のトプジェる溺に海紅

やふとしたときは紅海の岸で前は海左は山右は沙漠後はエジプトの追手といふ譯で遁げるに道なく進退谷つた、猶太の民は大に恐れて天主に只管救ひを願ひました、其時モイゼスは猶太の民に對つて汝等恐るゝな、今日天主のなさる奇いことを見るたらふといひました、ソコでモイゼスは天主の命令に從つて手を海の上に按げると見る間に海の水は分れて兩側壁のやふに立ち熟ひ風が吹き渡て海の底は忽ち乾き道が出來た、依て猶太の民は此處からやす〳〵と遁げることが出來ました、エジプトの軍勢は之を視て其後に續いて此道に入り海の中程まで往つたときには猶太の民は最う殘らず向岸に揚つて仕舞たんです、モイゼスは天主の命令に

從ひ再び手を海の上に按げると水は卽坐に復つて元の海となり、エジプトの軍勢は一人も殘らず溺れ死にました、第九圖は卽其有樣を書いたのです、此不思議なことを見て猶太の民は天主を恐れ敬ひ、主長なるモイズに能く遵ひました、此時猶太の民が遁げた道筋などは卷首にある地圖と對照して御覽なさい、

猶太の民は後アラビアの沙漠に入つてシナイ山の麓に天幕を張り此處に長く止まつた、モイゼスは天主に命けられシナイ山の頂上に登りました、其とき第十圖に視る如く雷は鳴り轟き電は閃き渡り黑雲は其頂上を十重廿重に包み大なる喇叭の聲は聽えシナイ山は麓から頂

上まで煙の立ち上るさまは恰度噴火山のやふで實に凄じく物すでい景色ですから麓なる猶太の民は大に怖れて居りました、時に天主は雲の上から頂上に降つてモイズに十誡をお授けなされたのです、委しくは第四十二圖の解釋の所にあります、

第十一圖

猶太の民はアラビアの沙漠に四十年の間捿むで後猶太國に入つて其民を追ひ此處に其子孫がだん〳〵殖えて、始めて猶太國が建つたのです、其國王のうちに一番名高はダヴヰド王とサロモン王です、此ダヴヰドが救世主の先祖となるべき御約束を受けた王です、又此ダヴヰド王の時に始めてゼルザレムを都と定めました、それで之をダヴヰドの町ともいふのです、サロモンは其

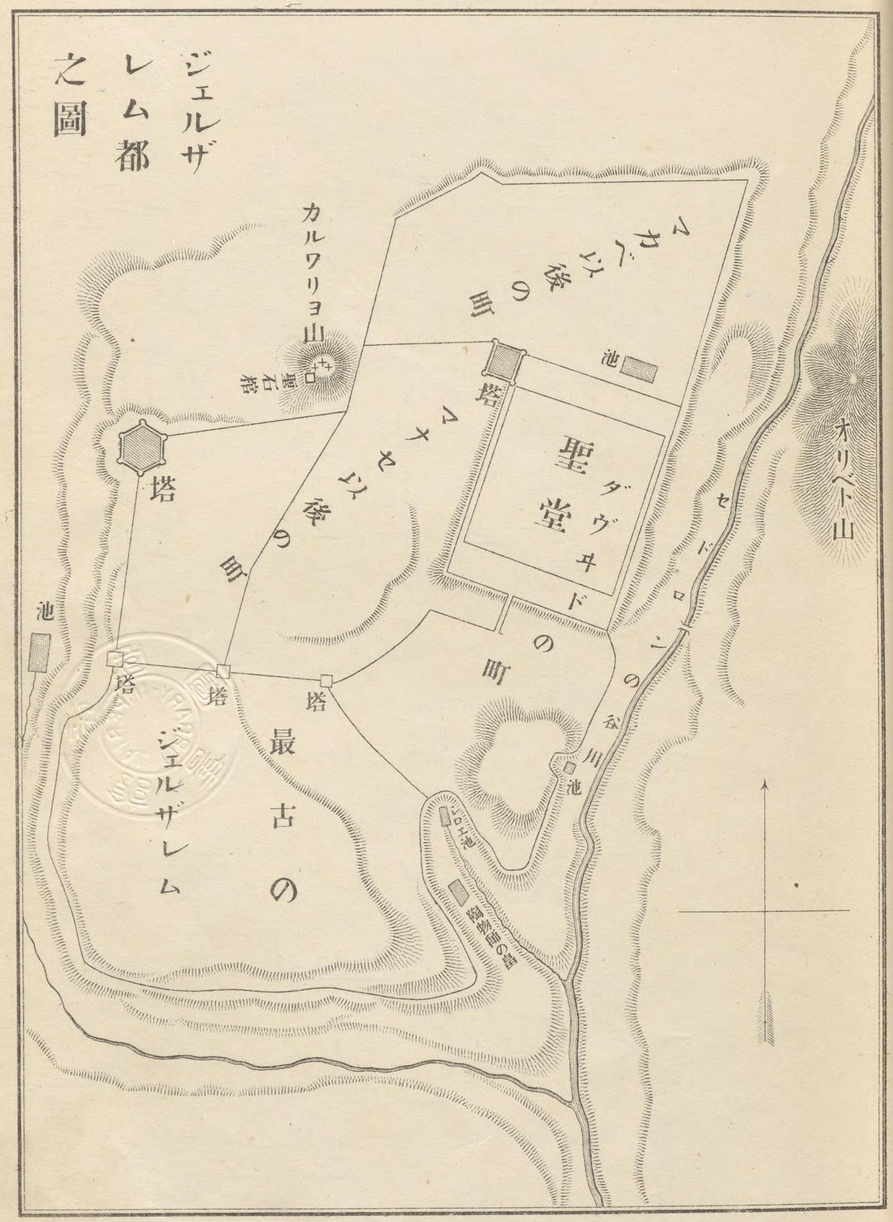
第十圖

ゐらへ與を誡十に山イナシ

子で又美麗な聖殿を建てました、此ゼルザレムといふ都は第十一圖にある通り其町と其近邊に小山が澤山あ
る、それゆゑ追々に廣がつたのです、サロモンの聖殿
はモリア山の頂上にありました、又イエズ、キリスト
の御時代には十字架にかゝり給ふたカルワリヨ山と御昇天なされたオリベト山は町の外でありましたが、現
今はたん〳〵廣くなつてカルワリヨ山は町の中になり
ました、

前にいふた通り天主の珍しい奇跡で助つたことは時々
であつたけれども、猶太の民は天主を忘れて度々背く
ことがあつた、それで天主は豫言者を多くお遣しにな
りました、この豫言者といふは猶太の民を戒めて天主

第拾壹圖



の道を能く守らせ、又何百年何千年后にあるべきことを告げる爲の人等です、この豫言者の告げた後々のことの中で一番大切のことは、救世主のことでその御誕生、御苦難、御死去、御復活などです、これを豫言といふて皆舊約聖書に記してあります、此澤山の豫言者の中に最も名高のは其名をエリヤスといふて此人は天主が生きたまゝ此世界から引取りました、第十二圖はいま引取られる所です、或時エリヤスが其弟子のエリゼヤスと共に旅に出て話ながら往くと、火の車と火の馬のやふなものが矢を射る如く二人の間を通り、エリヤスは之に載せられて空に揚つた、エリゼヤスは之を視て我父よ我父よと叫んだが忽ち其影は

見えなくなつて唯エリヤスの上衣が空から落ちてエリゼヤスの所に止まりました何ゆゑ此の豫言者の圖をことさらに茲に掲げたかといふに第二十六圖にもある通りイエズス、キリストが榮を現はし給ふとき其右と左に此エリヤスとモイゼスの二人も共に現はれ又た世界の終りに當つてこのエリヤスが再び世界に來て信者を助ける爲め致命に成るといふ名高い豫言者だからであります、

第二條　又其御獨子我等の主イエズス、キリスト、

舊約聖書にある豫言の通り、時も處も其他いろ〳〵細かなことまで少しも差つたことなく、天主は罪と地獄

から人間を救ふ爲に其御獨子イエズ、キリストをお遣しなされた、イエズ、キリストとは救世主といふ意味で人間にお成りなされた聖子といふ第二のペルソナであります、人間はイエズ、キリストに賴るの外助かる道がないから、われ〳〵は何うでもイエズ、キリストに遵はなければならぬ、ソウしてイエズ、キリストは神さまならば、一切人間天地万物の主であります、第十三圖は即ちイエズ、キリストの御聖像です、手に太陽、月、星、地球などの書いてある球を特つて居らつしやるは天地万物を司る權があるといふ意味を表し又其御右の手を擧げて居らつしやるは、人間の行末は天の他ないから此世界の幸樂などを捨てゝ天の清

第十二圖

豫言者エリアス天に揚げらるる

い幸樂を望めよといふことを表するのであります、

第三條　聖靈に由りて孕り童貞マリヤより生れ、

第十四圖

豫言者の書いた通りの年代に當て、天主は大天使ガブリエルをナザレットといふ邑の貧くて德の高い處女の所へ遣はしました、この處女はヨゼフといふ人の聘定でアブラハムの子孫のダヴヰドの子孫でマリアといふものです、ガブリエル天使が現はれていふ、慶哉天主の愛充滿たるマリア、主は汝と俱に在し、汝は女の中にて尊く在すと、マリアは此言を聞いて大に愕きました、すると天使が又怖るゝな、汝は天主の愛を受けて男の子を生むべし、これをイエズと名けよ、彼は天

主の子と稱へられ、世界萬民を救ふべしといふた、マリアは天使に對つて吾は天主に誓ひ、生涯童貞を守るもの、何うして左樣のことがありませふかといひましたが、天使がいふに聖靈によりて孕ると、ソコでマリアは之を信じ我は天主の婢女であれば其御言の如くなれといひました、第十四圖はこの御告を蒙つて居る所であります、

聖マリアに斯やふな御告があつたと知らずして其夫ヨゼフは、其懷孕になつたを大層怪むだ、其とき天使がヨゼフに現れて、疑ふな、マリアは聖靈に由りて天主の母となる、其生れた子は萬民を罪より救ふ、ゆゑに之をイエズ、と名けよといひました、ソコでヨゼフの疑

第十五圖

第十四圖

第十三圖

イエズ、キリスト
使徒信經第二條　又其御獨子我等の主
イエズ、キリスト

は直に解け天使の言に順ひました、其のちローマ國王が民の戸籍を調べる爲に布令を出しました、所が戸籍を調べるときには人民は皆な其故郷に歸て改めて受けねばならぬ規則でした、聖マリアとヨゼフは猶太國のナザレット邑に住むで居つたが、本ベトレエム町に生れたものですからお懷孕、殊には産月であつたけれども戸籍の調べを受ける爲にベトレエムに往つたんです所が斯やふに八方から集つたものが澤山あつて、町中に宿るべき家は一軒も無つた、依て止むを得ず町を出て山の麓なる厩の中に夜をお凌ぎなされた、然るに五百年千年前からの豫言の通り其晩十二時頃聖マリアは男の子を産み給ひました、聖マリアは喜びに滿たされ

之を布に包み馬槽の中に寐せました、是が卽救世主イエズ、キリストで、時は今年明治三十三年から千九百年前の十二月廿四日の夜のことです、第十五圖は卽その御誕生のところで、其周回に多勢の人が居るは近所に居つた牧童なぞか救世主の御誕生なされた御告を蒙むつたから拜みに來たところです、

此時猶太國より東の方のメソポタミアといふ國に三人の王がありましたが、孰れも學者で、別けても天文學れ達して居つた、或時此三人が每常天に見馴れない奇異星が顯はれたのを見て、昔の豫言に救世主がお生れなきる時は常に見ぬ星が空に顯はれると記してあることを思ひ出し、早く之を拜まふと各駱駝に騎つて星の

第十四圖

天使の御告

使徒信經第三條　聖靈に因りて孕り童貞マリアより生れ

方を指して遙々尋ね來て終に猶太國ベトレエムに着きました、所が其町に入らない前或山の麓の洞の中にある厩の上に前に見た奇い星の光りを見ました、そこで救世主の生れ給ふ所と分り、其中に入つて見ると、嬰兒は馬槽の中に寢かされて居りました、けれども三人の王は此貧い嬰兒を天主の御子が御誕生なされたのであると堅く信じて之を拜みました、之を三王來朝といひます、第十六圖に書いたのは三人の王が駱駝に乘つて星の方を指して往く所であります、

始め三人の王が救世主を尋ねて猶太國に着いたとき、ゼルザレム町に往つて猶太國の王ヘロデの所へ往き救世主の生れた所を問ふたのです、するとヘロデは又學

第十五圖

御主の御誕生

者等を集めて救世主の生れべき所を尋ねた、學者等は世界の王となるべき救世主はベトレエム町に生れると豫言に記してあることを答へました、ヘロデは之を聽いて我國の内に自分の外に王となるべきものが生れてはそれこそ已れの爲に危いから嬰兒の中に之を殺さうと思ひ、其惡心を隱して三人の王にベトレエム町に生れるといふことを教え、而して救世主が分つたならば自分も往つて拜みたいから知らせて吳れと賴むた、頓て三人の王は救世主を拜むで後其本國へ歸るとき、天主の御告に從つて、ゼルザレムに寄らずわざ〳〵別の路から本國へ歸て仕舞ました、ヘロデ王は之を聽いて大層腹を立てた、けれども最う及ばなかつた、ソコで

直に兵隊をベトレエム町に送り、其町は勿論近在までの二歳以下の稚兒は殘らず捕へて之を殺させました、然るに其より前に天主の使はヨゼフに其嬰兒と母とを連れてエジプト國へ遁げよと告げましたから、其夜の中に其母即聖マリアと其子のイエズ、を驢馬に乘せてエヂプトへ遁げ、五六年の後ヘロデ王は肉體が腐れて生ながら蛆がわき嫌はれ憎まれて死にましたから再び猶太に歸てナザレット邑に往みました、第十七圖はこのお三人がエジプト國の境にある沙漠を逃げ給ふ所でありまず、

猶太國には毎年一度の大祝日があつて、聖マリアとヨゼフは毎年此祝日にゼルザレムの聖堂に參詣するのが

第十六圖

三王來朝

例であ。りました、イエズ、が十二歳にお成りなされた
ときは少し遠いが倶に連れてナザレットからゼルザレ
ムに行き祝日も終へて聖母マリアとヨゼ。フは故郷のナ
ザレットに向け歸りました、けれどもイエズ、は一所
に歸りませんでした、マリアとヨゼフは他の同行者と
倶に居ることゝ思ひ別に尋ねもせず一日歩き晩に成つ
て友達知人に尋ねたが一向に知るものがない、ソコで
驚き悲むで再びゼルザレムに取て返し三日の間捜し終
に漸く聖堂の中に居り給ふを見た、其時イエズ、は第
十八圖に見る如く、多くの教師學者等と議論をして居
り、聽くものは皆其怜悧なのに驚いたのです、御母マ
リアは之を見て喜むたが、前の心配を思ひ出して我子

よ何故我等に斯く心配させしかといふた、イエズ、は溫和に答へて何故我を尋ね給ひしぞ、我は我天に在す聖父の聖慮ことを爲ることを知り給はぬかといひましたゞそれより兩親と倶にナザレットに歸り三十歳に成るまで孝行を盡して居給ひました、是御自分が行を以て孝行の道を教えくださる手本とお成りなされたのであります、

イエズ、キリストが三十歳にお成りなされたとき、救世主が現れることを知らせる爲に、大聖人洗者ヨハネ子は天主の御命令に從つて後悔と善とを猶太の民に勸めました、多くの人々は此ヨハネに隨いて洗禮を受けた、或日ヨハネがヨルダン河に洗禮を授けて居ります

第十七圖

エジプト國に遁れ給ふ

第十九圖

とイエズ、も來て洗禮を望むた、ソゴでヨハネはイエズ、に對ひ私は主より洗禮を領けねばならぬ身なるに却て私に洗禮を望むのですかといふた、イエズ、は答へて暫く我に任せよといひヨルダン河に入りヨハネから洗禮を領け給ひました、（第四十八圖）を看よ其時忽ち聖靈は鳩の形で其上に來たのを見た、又天に聲があつて彼は我愛する子であると聽えた、是れ御一體なる天主の中に三つのペルソナがあるといふの明かな徽で其聲が聖父を顯し、イエズ、が其子、鳩が聖靈を顯はします

洗禮を領けなされて後イエズ、は漁師のやふな智惠もなく學問もないものを十二人お撰みになつて之を使徒

となされた、イエズ、は此使徒等と共に三年の間猶太
國を巡つて教を布く爲に說教なされたり、言葉を掛け
るだけで不具、癈疾を癒したり、死人を蘇生したりな
どなされて御自分が人間に成つた神であることを現は
しなされた、其御說教はなか〳〵澤山ありますが其中
四つ五つ丈を擧げます、第十九圖は大勢の猶太人が集
つて居る中に幼兒のある婦人は皆其子をイエズ、に捧
げて祝福を下すことを願ふ所でありまず、此時使徒等
は之を五月蠅思ふてお傍を離れるやふ彼等を戒めた、
所がイエズ、は却て幼兒を呼び近かづけ弟子等を制し
て彼等を戒むるな却て幼兒を我傍に來たらせよ、凡て
幼兒に似たるものでなければ天國に入ることは出來ぬ

と仰せられました、其意味は人が幼兒の如く正直で潔い心を持たなければ助からぬといふことです、

第二十圖

或日イエズ、は第廿圖の如く山に登つて多勢の人に御說教なされていふ、心貧くして現世の財寶に心を奪られぬものは福である、何ぜなれば其ものは天國に行くがゆゑに。心の柔和なるものは福である、何ぜなれば其ものは神にも人にも愛されるがゆゑに。悲むものは福である、何ぜなれば其ものは慰められるがゆゑに。現世に於て餓渇くとき食物飲物を望む如く善を望むものは福である、何ぜなれば其ものは來世に滿足するがゆゑに。他人を憐むものは福である、何ぜなれば其ものは天主の御憐みを受けるがゆゑに。心の潔きものは

第八十圖

十二才の時御堂に見出され給ふ

福である、何ぜなれば其人は天主を視ることを得るがゆゑに。他人と和ぐものは福である、何ぜなれば其人は天主の子と云はれるがゆゑに。善の爲に迫められるものは福である、何ぜなれば天國は其人のものなるがゆゑに。吾の爲に人々に詬られ迫められ無實の惡口を云はれるときは汝等は福である、其時は悦べ樂め天國に於て汝等の受ける褒美が多くあるがゆゑにと仰せられました、此御說教は山の上の御說教と名けられて現世に卑められる人々や難儀苦みなどある人々を大に慰め喜ばせる御金言ではありませんか、

イエズ、キリストの御說教の中に貧乏で難儀するものを慰めることがモ一つある、イエズ、例を以て仰せ

第十九圖

イエズスと赤子

られるに、或時一人の金持があつて第廿一圖にある如く立派に着飾て毎日大宴をして娯むで居つた、玆に又ラザルといふ全身腫物だらけの一人の乞食があつて、毎晩この金持なる人の門口の軒下に宿りました、ソウして其家の膳部の食餘りを願ふて居りました、けれども誰あつて之を憐むで與へるものがない、只飼狗が來て彼を慰めがほに舐るばかりでありました、其後彼の乞食は死んで天國に登り金持は死んで地獄に墮ちた、彼の金持は苦みを受けながら目を揚げて遙かに神のお傍に嬪むで居るラザルを視叫んで願ひますに神よ吾を憐み給へ、ラザルを遣して其指先を水に浸し我苦みを冷さしめ給へ、我は此火焔の中の苦さに堪えられぬと

其とき神は彼に答へていふ、汝は活きて世に居るとき福を受け、却てラザルは不幸に活きて居つたことを思へ、彼はそれゆゑに今慰められ、汝はそれゆゑに今苦めらるゝと、此御說教の例に由てすべて肉體も心も酷く難儀するわれ〳〵信者がイエズ、の教を愼むで守れば、死后此ラザルの如く天國に往つて大なる福樂を受けるといふことを御考へなさい。

又イエズ、キリストが或時例を以て御說教なされた に或者に二人の男子があり、一人の弟は其親に請ふて財產の分前を貰ひ直に他國へ往つた、けれども彼は惡しき遊戲や奢侈で程なく之を失した、ソコで詮方なく或家に雇はれて豚飼の番人といふ極く卑い職業に其日

第二十圖

山の上の御說教

を送つて居つた、けれども益貧乏に成り苦しくて堪らぬから玆に始めて後悔の念が起り、謂ふのに我は之より父の家に歸り、父よ吾は天に對し又阿父に對して罪を犯し、最早御身の子とは云はれぬから、何うか御身の雇人と見做して置いて下されと詫びたならば父も許さぬことはあるまいと、ソコで直に仕度して家に歸つた、すると父は遠くから其子の歸るを見て憐みに堪けて傍に走つて往き第二十二圖にある如く其子を抱きしめて大に悅むだ、子は父に對つていふ父よ吾は天に對し御身に對し罪を犯したから、今は御身の子と云はれぬと、然るに父は其僕婢共を呼び、早く美き着物を被せよ、靴を足に穿かせよ、又犢を屠して喜びの宴を開

けよ、何ぜなれば死んだものが生き、失したものが歸たに同じたからであるといふたと、この御說教を讀むたならば吾人は天主に對して如何ほど不孝をしても罪を重ねても本心から之を悔めば天主は愛の深い親の如く大なる悅びを以てお宥し下さるがゆゑに、吾人は罪を犯した爲に落膽してはならぬ、又天主の御憐みを疑ふ譯もありません。

第二十三圖

或日イエズ、は使徒等と共にゼルザレムの聖堂に往つて參謁する多くの金滿家が澤山の金を賽錢筥に納れるを見ました、其時第廿三圖にある如く一人の貧い寡婦が來て矢張賽錢筥に僅が五厘の錢を納れた、イエズ、は之を見て弟子等に對ひ、此貧乏な寡婦が納れた錢は

第二十一圖

金持と貧乏よ就ての
御說教

第二十四圖

前の孰れの金滿家が納れたよりも多い、何ぜなれば彼等は皆有餘る中から納めてたのであるが此寡婦は乏しい中から生計に必要の錢を分けて納めたからであると仰せられました、是を以て見ますると天主の思召に適ふのは献ける金額の多少には係らず只其心に由るのでありまする、心に由て僅か一厘の錢で一万圓の金よりも大なる褒美を得られるでありませふ、日本の俚諺に長者の万燈より貧の一燈といふことがありますが恰度この意味なのであります、

イエズ、が神の力を顯しなされた奇跡は多くありますが第二十四圖に掲げたのは其中の一つで、或時イエズ、が使徒等と與に旅をなされると或一人の村長が來て

イエズ、の足許に拜伏して自分の只一子の十二歳斗りになる娘が今死に頻て居るから癒し給はれと願つた、イエズ、が之を聽いて彼の家に往かうとするとき、村長の家族のものが來て娘は最早死むだからイエズ、に御心配をかけるには及ばぬといひました、イエズ、は之をお聽きなされて、娘の親に對ひ、悲むな、只信ぜよ汝の娘は助かると仰せられて、彼の家に往き人々の歎き悲むを御覽になり、歎くな娘は死んだでなく只眠むつて居るのであると仰せられた、然しながら人々は其死んだことを確かに見たのですからイエズ、を哂ひました、其時イエズ、は其娘の兩親とペトロ、ヤコボ、ヨハネの三人の弟子ばかりを連れて圖の如く娘の寢せ

てある室に這入り、其手を取て娘よ起きよと大きな聲を掛けますと、彼女の靈魂は歸つて彼は直に起きました、之を視て兩親始め人々は大に驚きました、此奇しい蹟は大評判になつて國中に傳はりました、

第二十五圖

猶太國を巡つてゼネザレットの湖邊に往きましたとき、イエズ、は使徒等を小舟に乘らせ御自分より前きに湖を渡つて向岸に行くやふ命けました、其時は既や日暮で小舟が湖の中に出ますと、折悪しく逆風でしたからひどく濤に搖られ掉ぐに困まつて居るを見て夜の十二時頃第二十五圖のやふにイエズ、は海の上を歩いて舟の方に往きました、弟子等は海の上を歩くを見て怪像たらふと思ひ驚いて叫んだ、イエズ、は彼等に仰せら

第二十二圖

孝子の改心に就ての
御說敎

るゝに、安心せよ我あるぞ懼るゝなと、ペトロいふ主よ若し主ならば我に命けて水の上を歩き主の傍に往くことを得させ給へと、イエズ、いふ來れと、ソコでペトロは小舟を下りイエズ、の所へ往かふと水の上を歩いたが、風の強いのを見て懼れて沈み始めたから叫んで、主よ我を救ひ給へといふた、イエズ、は直に手を伸ばして彼を捉へ、信仰薄きものよ、何故疑ふかと仰せられて與に小舟に乘り風は止むだ、小舟に居るものは皆イエズ、を拜むで主は誠に神の子であるといひました、

イエズ、、キリストが御苦難御死去の催か前にペトロ、ヤコボ、ヨハネの三人を連れてタボール山にお登り

なされたとき、第二十六圖にある通りイエズ、は其三人の前で尊容が變り御顏は日の如く輝き御衣裳は雪の如く白くなつて何の布を晒すとも斯くまで白くすることは能ふまじと思はるゝほどで、又第十二圖にあるエリアと第四十二圖にあるモイゼスの二人が其兩側に顯はれてイエズ、と何か談して居りました、時に輝く雲が下り其中に聲があつて彼は我愛する子である汝等彼に聽き從へといふた、弟子等は之を聽いて倒れ伏し甚だ懼れました、イエズ、は進み寄つて彼等に手を懸け、起よ恐るゝなと仰せられた、彼等は目を擧げて視れば最早イエズ、の外誰も居りませんでした、吾人は此話を讀むでイエズ、が御自分の榮を顯すことも隱すこと

第二十三圖

貧しきやもめの施し

も御自由であるが始終榮を顯はしては吾人をお救ひなさる爲に御難義なされ御死去なされることが出來ないから生涯の中只一度たけ榮を顯はし給ふたといふことが知られます、

茲にベタニアといふ邑にラザルといふ人があつて、此人は御殿のやふな家に住むで隨分立派な身分の人でありました、其妹にマグダレナとマルタといふ二人があり、此兄弟三人は極く正直な善人等でイエズ、を堅く信じて居り、イエズ、も亦た此兄弟を深く愛して居りました、或時イエズ、が他國に巡つて居つたときラザルは大病に罹りました、二人の姉妹は使を遣つて之をイエズ、に知らせた、是はイエズ、がラザルを愛して

第二十四圖

死者を蘇らせ給ふ

居るから直に來て見舞て呉れる、さうすれば如何なる病氣でも癒らぬことはないと信じて居つたからです、所がイエズ、は使の報らせを聽いて、決して死ぬ病氣でない、我神の子たる榮を顯はさせ給ふのであると仰せられて、使を還した、ベタニアではラザルの病氣がます〳〵重くなり二人の姉妹はじめ毎日イエズ、を待て居りましたが遂にラザルはイエズ、が來ない前に死んで仕舞ました、然るにイエズ、は他國に居てラザルの死んだを知て弟子等に對ひラザロは死んた汝等の信仰が深くなる爲に吾は之を喜ぶと仰せられてベタニアに向ひ御發足なされた、ラザルの家に着いたときは最早墓に葬られて四日目でありました、二人の妹はイエ

ズ、の足許に平伏して涙ながら主よ若し此にお在でなされたならば我兄弟は死な無つたのであらふと言ました、イエズ、は二人の妹の泣くのを憐みラザルの墓に案内せよと仰せられた、墓は洞の中で其入口に石で蓋がしてある、イエズ、は又石を去けさせた、所がマルタがいふに、主よ彼は既や臭し死んでから四日経ちたりと、イエズ、がいふに、汝若し吾を信ぜば神の力を見るといふたではないかとソコで大なる聲を擧げたまひてラザルよ起よ外に出よと仰せられました、すると第二十七圖の如く死人は手足や面を布に裹れたまゝ直に出て來ました、依て布を釋いて見まするに少しも腐つた樣子もなく常の通り全く蘇生ました、慰めの爲に

來て居つた多くの猶太人は之を見てイエズヽの誠の神なることを信じました、

第四條　ポンシヨピラトの管下にて苦を受け十字架に付けられ死して葬られ、

猶太の敎師學者等はラザルの蘇生を聞いて大に困まり相互にいふに、若し彼が斯やふな大なる奇跡を爲て此儘に捨てゝ置いたならば人々皆彼イエズヽを信ずるやふにならふから是非とも殺さふと相談を決めました、ソウしてイエズヽの居る所を知るものがあれば告げるやふに布令たんです、ソコで十二人の使徒の一人ユダスといふ慾深のものは、イエズヽの居る所を知つて居るから造作なく捉へられるやふ合圖をしませふといふ

第二十八圖

第二十圖

ふ給み歩を上海ヽズエイ

て三十圓の金を貰ひ御主を惡人の手に賣る約束をしました、イエズ、、キリストは神ですから此ことを皆お知りなさつて、猶太人に賣れる晩に弟子等を連れて橄欖山の中程にある、ゼツマニアの杜といふ處に往き、我心は死ぬほどに悲む、汝等此所に待てよと仰せられ、第二十八圖にある如く御自分は十五六間も離れた處に往つて祈りました、吾父よ御身の聖旨に協はゞ後に受ける難儀苦痛を赦し給へよ、されど吾願ふまゝでなく聖父の聖旨に任せ給へと、是はイエズ、が愈吾人々間を救ふ爲に御苦難御死去なさることの近いたのをお知りなさるから、矢張常人の如くお悲みなさつたのですが、然しイエズ、が一番お悲みなされたのは、人間が

第二十九圖

天主に對して犯す罪の多いことでありました、それで此時イエズヽは血の汗をお流しなされましたほどです、然るに使徒等はイエズヽの斯程の御悲みを知らず眠むつて居りました、

程なくユダスは兵卒共を連れて來て合圖を以てイエズヽを捉へさせました、イエズヽは後ポンショピラトの裁判所に引れて第四十七圖の如く裁判され給ひました、猶太人はピラトに向つて種々訴へたけれどもピラトは其云立が皆僞であると知つたから無罪にせやふといふた、所が猶太人は承知せずして大騷動にもなりさふな樣子ですから恐れて無罪だと知りつヽ磔刑の宣告を致しました、其時殘忍兵卒共は第二十九圖の如く恥辱を

第二十六圖

イエズヽ榮光と顯し給ふ

かゝせる積りで茨の冠を造り之を無理に押被らせ口々に悪口をいふたり、唾を吐きかけたり頬を撲つたりなどしてさま〴〵に苦痛を懸けました、

終には重い十字架を御自身に擔はせてピラトの裁判所からゼルザレム町を通りぬけてカルワリヨ山に往きました、此通路が十字架の道行であります、前後には馬に騎て居る羅馬の兵隊が附き、又教師等は太く嫌ひ悪む心でさま〴〵と嘲り笑ひ、ゼルザレム町の人民は其周にワイ〳〵と騒いで居りました、イエズ、は云はれぬほどの心の悲みと体の苦みに疲れ果て、第三十圖の如く三度まで倒れ給ひました、其度にあら〳〵しき兵卒共は少しも憐みの心なく鞭を擧げてイエズ、を撲ち無

第三十一圖

理に引立てゝ行きました、然しながら此道で一番お悲みなされたのは聖母マリアにお遇ひなされたことでした。カルワリヨ山の頂上に着けば第三十一圖の如く惡人共は荒々しく十字架に推當て手足を挫りて釘を差込み鉄槌で先右の手を打附けたから左の手は縮むたのを、情なくも手足に繩を懸け、力に任せて引伸し、又釘を打附けました、其時創口から血は流れ出て實に目も當てられぬ有樣なるに惡人共は少しも搆はず十字架を押立て其根を撞き堅めて立ち去りました、聖マリアは始終の樣子を見て涙に咽び使徒のヨハネとマグダレナ其他二三人の聖女と十字架の下に止つて居りました、最初惡人共はをイエズ、罪人の如く思はせる爲に其右

第二十七圖

ラザルと蘇らせ給ふ

と左へ盜賊二人を繩で十字架に縛りつけ同時に殺しま
した、御主は斯く恐しい恥かしい御苦難をなされても
始終默つて居給ひました、
御主が十字架に釘附られたのは金曜日の晝の十二時頃
で空は晴れ渡て居りましたが、此時遽かに太陽の光は
消えて暗の夜の如くなつたことは第三十二圖のやふで
した、ゼルザレム中の人々は之を見て大に懼れた、御
主は釘付られて御死去なさるまで十字架の上で聖父の
天主に向ひ、彼等は何の辨へもなきゆゑ彼等の罪を宥
し給へと祈りました、右の方の盜賊は之を聽いて、主
よ天國に往くとき私を思ひ給へと願つた、御主は今日
汝吾と共に天國に登ると仰せられ、やがて午后三時に

成ると御主は大聲に父よ吾靈魂を汝の手に托すと仰せられて御息は絶えました、すると忽ち劇しい地震があつてカルワリヨ山が割れ恰度イエズヽ、キリストの十字架と其左の改心せぬ盜賊の十字架との間に大きな虧隙が出來ました、此恐しい徵を見て人々慄ひ怖れ彼は人間に見えても神に相違ないといふて後悔して逃げました、

第三十三圖

其日の暮方人々は皆ゼルザレムに歸て後に殘つたものは只聖母マリア、聖ヨハネ、聖女マグダレナと他に四五人の弟子と聖女でありましたが、ポンシヨピラトの許を受けて日が昏れてから十字架よりイエズヽの御屍を下し猶太國の習慣に從つて經惟子と沒藥を以て之を包み

ふ給み悲に森のアニマツゼ
れら葬てし死れらけ釘に架字十け受を苦てに下管のトラヒヨシンポ 條四第經信徒使

第三十三圖のやふに石の棺に收めてカルワリヨ山の麓にある洞穴の中に手篤く葬りました、斯く暗い晩に山の中の寂い所に僅か五六人の御弟子だけでイエズヽを葬むつたのは實に衰れな葬式ではありませんか、

第五條　古聖所に到りて三日目に死者の中より復活、

イエズヽ、キリストは斯く葬られ給ひて金曜日の晩から三日目の日曜日の朝まで其間御靈魂は古聖所といふて開闢より當時まで死んだ善人の靈魂の止つて居る所に往き、天國に上る時の來たことを告げて彼等を慰めました、初めゼルザレムの教師等はイエズヽの御屍を弟子等に盜まれない爲に、五六人の兵隊を送つて其墓

第二十九圖

茨の冠を被らせ給ふ

に番をさせました、かくて三日の間は何事もありませんでしたが、弟子等は未だ信仰が薄くてイエズ、が死んだから力を落して皆恐れゼルザレム町に隠れました、處が三日目の日曜日になり朝未明に俄かに地震があつて天使は現はれ墓に蓋した石を取り除け、イエズ、キリストは第三十四圖の如く御自分の力で御復活なされ御肉身からは太陽の如き光を放ち墓から出で給ひました、之を見た傍の番兵は大に恐れゼルザレム町に遁げて仕舞た、イエズ、が斯く榮を以て復活なされたのは、吾々も熱信であれば矢張世の終りに榮を以て復活といふことを表するのであります、

イエズ、は御復活の後又四十日の間現世にお止まりな

された、之は度々弟子等に顯はれて御復活の証據を見せる爲に又使徒に聖會のことを教える爲であります、御復活の日曜日の中だけにも四度顯はれなさつた、第一は聖マグダレナに、第二は聖ペトロに、第三はエンマウスといふ邑の二人の弟子に、第四は十人の使徒等が集つたときに顯はれなされました、第三十五圖に掲げたのは右の第三度目に顯はれなされた處で、或二人の弟子がゼルザレム町から其近所のエンマウスといふ邑に行くとき、イエズ、が顯はれて彼等と共に行きました、けれども彼等は其イエズ、なることを知らなんだのです、イエズ、は彼等に向ひ、汝等は何故悲むで

居るかといふた、一人のクレオフワスといふ弟子が之に應へて汝はゼルザレムに在つた近頃の出來事を知らぬか、イエズ、といふ人の行と言を以て見れば大豫言者なるゆゑ必ず猶太人を救ふたらふと吾々は賴もしく思つて居たのに、然るに三日前教師等は罪なき彼を十字架に釘つけた、處がわれ〳〵の知合なる女等から驚く話を聽いた、それは三日目の今日彼等は未明に墓所に往つたら其御屍は見えず天使が現はれてイエズ、は復活て居ると告げられたと、いふことをわれ〳〵弟子等に知らせた、依て弟子等二三人が墓所に往つたら成程いふた通りで有つたといひましたと、イエズ、は愚か

ふ給れ倒度三、ズエイ

なるものよ、豫言を信ずる心の鈍きものよ、救主が萬民を救ふ爲には是非とも苦と死を受けねばならないではないかと、仰せられ又其他モイゼスとすべての豫言者の語を擧げて其意を明かに細かに陳べ給ふた、ソコで二人の弟子は急に目の醒めたやふに是がイエズ、であると知つて、其足許に拜したら忽ち其御容は彼等の目から消えて仕舞ました、斯く顯はれ給ふたことは度々でありましたが其中に一度は五百人の人々に對つて御顯はれなされたことがありました、

第六條　天に昇りて全能の父なる天主の右に座し、

第三十六圖　御復活から四十日目に當つてイエズ、はゼザルレム町に於て百二十人の御弟子等に顯はれて種々のことを教へなされ、後其弟子等と共にゼルザレム町を出で橄欖山に赴き給ひました、此山は其時より四十三日前に血の汗を流しユダスから敵の手に渡された處です、山の頂上に着くと、イエズ、は汝等後に聖靈の恩澤を受けたならば世界万國に行き万民に福音を聽かせよ、信仰して洗禮を受けるものは助かり、信仰せぬものは助からぬと仰せられ、手を挙げて御弟子等に祝福を下し御自分の力で恰度第三十六圖にある如く天に昇つて雲の中に這入り見えなくなりました、多くの弟子等はイエ

第三十一圖

十字架に釘けられ給ふ

ズ、が斯く御昇天なされるのを目を放さず何時まで仰ひで見て居りました、すると白衣の二天使が傍に顯はれて汝等何ゆゑ天を仰ひで立つか、イエズ、は汝等と離れて天に昇れり、斯く汝等の見たる如く亦た來るといひました、

天主の右に座すといふことは、天地萬物人間一切を宰り給ふといふ意味です。

第七條　彼處より活ける人と死せる人を審判ために來り給ふ主を信ず、

イエズ、が天に昇りたる如く亦た來るべしと天使がいふたのは、イエズ、が榮を以て天にお昇りなされた如

第三十二圖

十字架の上に死し給ふ

く世の終りに萬民を裁判する爲に大なる榮を以て再び下るといふことです、其裁判を公審判といひます、それは世の終りに世界萬民を皆一時に裁判をさるといふことです、其他にモ一つ私審判といふがある、それは人が死ぬとき直に各自の靈魂が天主の裁判を受けることです、この私審判に由て吾々人間の行末が決ります ソウして人間の行末は四つある、第一は死ぬこと、第二は審判を受けること、第三は天國、第四は地獄、この四の行末の中第一の死ぬといふことは、是は源罪の罰で死ぬことの無い人間は一人もありません、人間は此死ぬといふことを深く考へれば惡を避け善を行ふこ

とは誠に容易い、死ぬことを考へて改心したものは昔から随分多かつた、其中に一千五百十年にイスパニアの國に生れたフランシスコ、ド、ボルジアといふ人は身分は公爵で天子の宮殿に重い職を勤め、長く世間の中に居りました、所が時の皇后イサベラといふが死にまして、其葬式掛をド、ボルジアが命けられました、そこでド、ボルジアは四五日も懸つて種々仕度し、いよいよ皇后の屍骸を棺に牧めやふと第三十七圖の如く他の人々と之を見ました、然るに生きて居られた時は世にも稀れなる美人も今死んだのを見れば目は落ち頬は痩せ色艶は消え、實に醜い婆に變り果て、肉体は腐れ始

めて既に臭さへあるといふ有様を當面見て、人々皆驚いた、中にもフランシスコ、ド、ボルジアは最も深く感じて夢の覺めた如くに現世の榮燿榮華の空しいことを悟り、天主に奉行するの他頼みにするものはないと知て立處に其立派な身分や財寶やすべて世間のことは捨てゝ仕舞ひ、行者會に入つて終に大聖人に成りました、われ〳〵も之を手本として度々死ぬといふことを考へるがよろしい、

第二審判を受けること之は前にある通りで別にいふことはありません、

第三天國、是は罪の無いもの、又は罪があつても其赦

第四十三圖

聖き御家族
第四誡

依て見ると邪淫は天主の大に嫌ひ給ふ罪で、時々は此世に於ても酷く罰されることがあります、

第七　汝偸む勿れ、

此御掟を以て總て他人の財産に損を掛けることを禁じた、偸、詐欺、高利貸、約束を破る、借りたものを返さぬ、他人の物を妄りに壞す、捧先を切る、法外の掛直に賣る、なぞのことは皆含むで居る、舊約聖書を見ると盜の罰はなか〳〵重つたです、其一つを擧げれば、或戰爭の時にアカンといふ人が敵の分捕品の中から何か偸むで隱しました、すると天主は其人と其人の財産を皆燒くべしと御命けなされた、依て猶太人は第四十

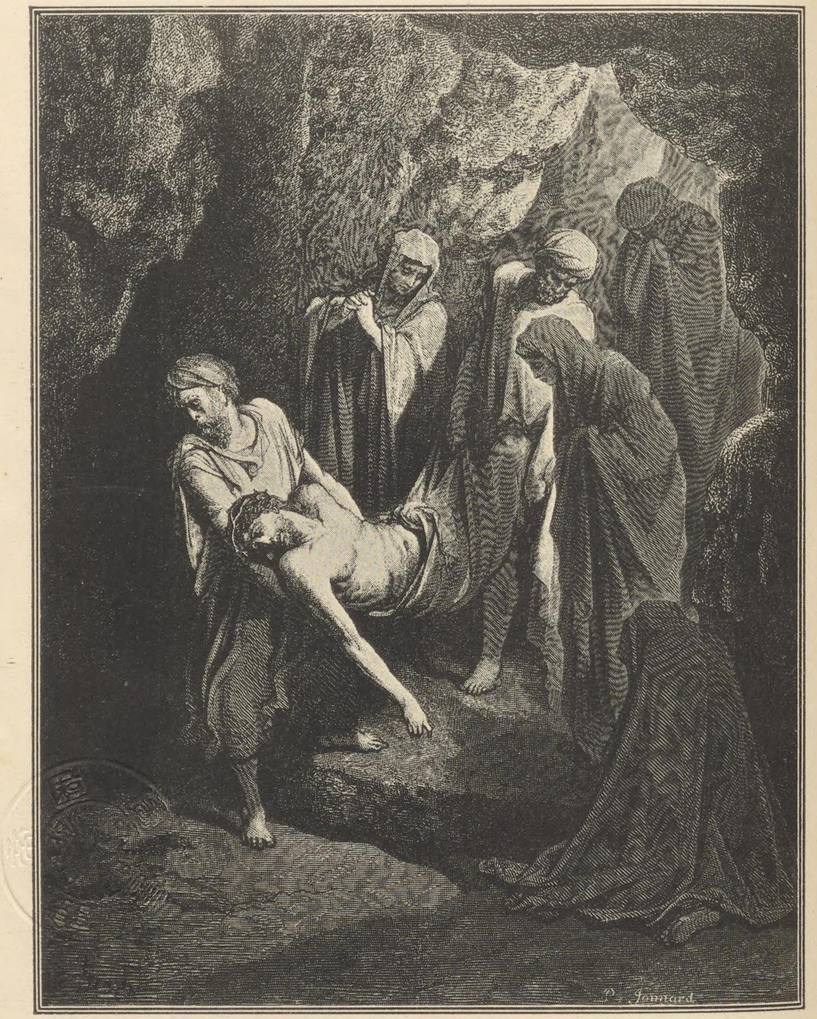
六圖の如く見るも恐しき石打にして之を殺し其上之を焼きました、之を以て見ても他人の物に損を掛けるのは輕い罪でないことが分ります、

第八　汝僞證する勿れ（僞をいふな）といふこと

此御掟は僞をいふことを又は裁判所に僞の證人となり、言行を以て故意と他人を瞞し、或は讒言、邪推、無實の咎を他人に被せる、理由なく人の落度、過失を言ひ觸すなどを禁じます、此第八の御掟に付て一番重い罪を犯した人間は相違なくポンシヨピラトの裁判所に僞を以てイエズ、キリストを愬へたもの共です、第四

第四十七圖

第三十三圖



葬られ給ふ

を受け償まで濟むた靈魂の行く處です、此處には心配や悲み苦みは少もなくて、云はれぬほど深い幸福を受け、天主と共に終りなく樂む所です、

罪の償の濟まない靈魂は、其罪の償を果たすまで煉獄に行き苦みを受けます、ですから煉獄は終りがある、そうして償を果した靈魂は第三十八圖の如く天國に昇ることが出來ます、罪の償を早く果す道が多くありますが其中でも現世に於て聖母マリアを賴むこと、又聖服を一生涯放さず掛けて居ることが最も大切です、償を果して仕舞は圖にある通り守護の天使に迎へられて天國に上りますが其時の悦びは何んなでありませふ。

第四地獄、是は大罪があつて死ぬものが天主に捨てられて恐しい罰を受ける處です、全体天國や地獄の圖を書くことは六ケ敷が第四十圖の上の方に書いてあるのが天國の有様を幾分現はして居ります、

第八條　我は聖靈、聖靈は天主の第三のペルソナでありまして、使徒等には分けてもいろ〳〵の御合力を與へて靈魂を照し心を清め善に導き給ひました、イエズ、キリストが御昇天のとき御約束なされた通り、其十日目に使徒等の上に聖靈が下りました、其時使徒等はゼルザレム町の或家の座敷の中に集つて居つたが第三十九圖にある如く

第三十九圖

御復活し給ふ

使徒信經第五條　古聖所に降りて三日目に死者の中より蘇り

遽かに天より烈しい風のやふな響がして火焔のやふなものが現はれ、分れて彼等各の上に止まりました、すると忽ち彼等は聖靈の恩を受けて智惠は開け教の旨を全く悟り心は堅固して、世界萬國に教を擴める勇氣が出ました、使徒等は其時までといふものは智惠もなく、學問もなかつたのですが忽ち學者のやふに成り萬國の語に通じ、前きには御主を捨てゝ遁げるほど臆病であつた彼等は今は命をも捨てるほど強くなりました、吾くも矢張末に鮮く通り堅振といふ秘蹟を以て聖靈の恩を受けることが出來ます、圖に鳩を畫いたのはイエズが洗禮を領けたとき聖靈が鳩の形に現はれましたか

ら矢張聖靈を表したのであります、

第九條　聖公會諸聖人の通功、

イエズヽ、キリストは聖公會を以て其御教を萬國萬代に傳へ給ひます、聖公會とはイエズヽ、キリストを頭として其教を信じ守り、又其御名代なる頭に從ふ信者の團体をいふので、即天主教會のことです、イエズヽ、キリストは御昇天なさつて此世に居らつしやらぬから、其代りにペトロといふ使徒の一人を擇むで聖公會の頭領にした、此ペトロの後を繼いで羅馬の司教となるものは皆聖公會の頭領です、之を教皇或はぱつパッパとひます、此教皇の他に教を傳へたり、祭を司つたり、秘

第四十圖

第三十五圖

御弟子に現はれ給ふ

跡を授けたりずる爲に其權を分けて與へられたものがあります、それは司教と靈父です、ソコで聖公會には三つあつて、第四十圖の上の方にあるのが天國でこゝが助つた靈魂の集合、次は圖の中程にある現世の聖會で私慾や世間や魔鬼の誘ひと戰ふ信者の集合、之を戰の聖會といひ、次は圖の下方に書いてある煉獄に於て罪の償を果す爲に苦むで居る靈魂の集合、之を苦みの聖會といふのです、此三つは全く同心一体で一つの聖會であります、其で天國に居る靈魂が天主に願つて吾々生まて居る人を助けて吳れ、又吾々は祈と信心の勤で此世に在る信者同志は申に及

ばず煉獄に居る靈魂を助けることが出來る、斯やふに其積むだ功を三つの聖會が相互に融通して助け合ふことを諸聖人の通功といふのです、又圖の中段香臺の兩側から水が飜れて居るやふに見えるのはこれは、御ミサの度毎にイエズ、キリストの御功德を天使が煉獄の靈魂に蒙むらせるといふことを表すのであります

第十條　罪の赦、

イエズ、キリストが十字架の上に流し給ふた御血の功力によつて人間の犯す罪と其罰を赦されることが出來る、これは後にある洗禮、悔悛、の秘蹟に由て得られるのです。

第三十六圖

御　昇　天

使徒信經第六條　天に昇りて全能の父なる天主の右に座し

第十一條　肉身の蘇生、

人が善惡をするのは、靈魂のみでなく肉体も共にするのです、然に人が死んで後は靈魂だけは行に因て天國或は地獄に行く、けれども肉体は地に埋められて塵に歸て仕舞、其ゆゑ世の終りに公審判を受けるときは、天主の限りない力に依て再び靈魂は本の肉体と合して復活前の如く人間に成るのであります、是は聖書に明かに書いてある、新約聖書ポーロがコレンチオスに贈る前の書翰に、吾等皆悉く世の終りに復活、瞬く間に死た人は復活て新しい人間に成るとあり、又舊約聖書にエゼキエルといふ豫言者も肉身の復活に就て天主の

御告を書きました、即或日天主は枯れ果てた骨の充ちたる原を余に見せた、その骨は皆な朽ちて實に太層なものであつた、天主は余に彼の骨は再び活きることが出來ると思ふかと仰せられた、余は天主よ、ソは主の御存じなさる處であると應へた、天主は仰せられるに吾後に彼の骨に本の靈魂を遣はし、彼等の周圍に肉と節とを着け皮を被せて再び生るやふにする、何ぜなれば吾は萬物の主なる故であると、余は此御語を聞き終るや否、多くの骨は動き初めてザワ〳〵といふ音が聞え各其骨が結び合つて肉も皮も着き本の靈魂が歸つて皆復活たを見たと、第四十一圖は此エゼキエルが見た所

第三十七圖

人間の死と視て悔ひ改む

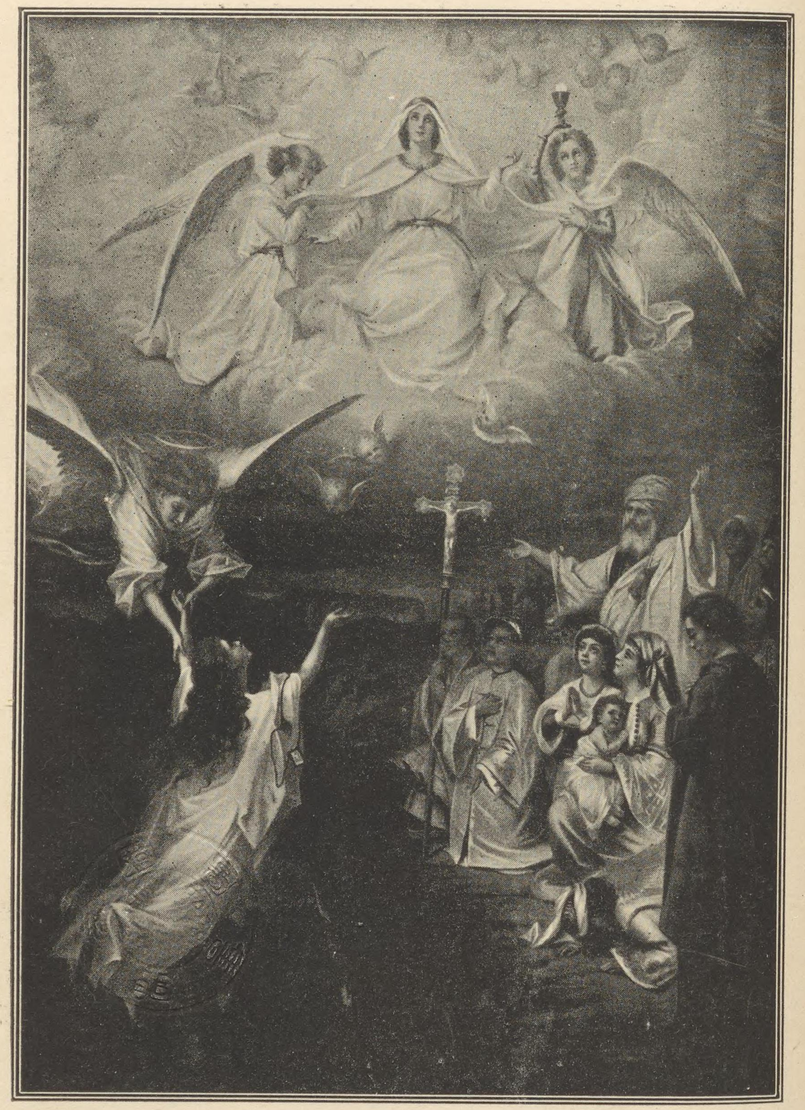
使徒信經第七條　彼所よリ生け人と人と死せる人な審かんが爲に來リ給ふ主ろ信ず

の有様を書いたのです、天主教で教える世の終りに死人は皆復活るといふ話を不思議に思ふて信じられないならば、最初天主が何も無い處から天地萬物人間を造り出し給ふたといふことは猶更不思議で信じられないではありませんか、

第十二條　終りなき生命を信じ奉る、

終りなき生命とは善人が天國に往つて終なく天主と共に生ることです、之を信ずるといふは、吾々が此世に於ては聖靈の御功力に因つて私慾を抑へ悪を避け善を行ひ毎日信心の勤を守り、又悪人に迫められ、悪口されるなどの如き心配難儀を天主の爲に堪えることは決

第三十八圖



煉　　獄

して無益でない、其代には終りなく立派な褒美を受けると堅く信仰するといふ意味であります、

◎第一部　守るべきこと

人間が死后の助りを受ける爲には前きにいふた所の天主の御告は皆確く信じなければならぬは勿論ですが、其のみでは未だ足りませぬ、只信じた斗りで行が無ければ其は死んだ信仰といふて何もならない、ですから信ずる外善を行はなければならぬのです、ソウして間違なく善を行ふ爲に守るべき規則が二種あります、一は天主の御掟、二は聖會の御掟です

○天主の十誡

天主の御掟は十あつて之を十誡といふ、此十誡は前にもいふた通り猶太の民がエジプト國を出てアラビアの沙漠に這入りシナイ山の麓に止まつたときモイゼスが天主に命けられて山の頂上に登つて、天主より直接に教えられた規則です、天主は只御言のみでなく御自身彼の十誡を石に刻むでお知らせなされました、第四十二圖はモイゼスが此聖い石を捧げながら山を下る所です、舊約聖書にある通りモイゼスは天主と直接にお話したから御貝から奇しい光が指した猶太人が對顏ことが出來ぬほどでありました、其で猶太人は愼むで此御掟を受けました、然るにイエズ、キリストの御死去からモ

イゼスの教は癈められて其代り天主教に成りましたのですが、モイゼスの教の中で此十誡たけは殘りました、十誡の中に第一第二第三は天主に對する規則、第四から第十までは人間に對する規則です

第一　我は主なる汝の神なり我の他汝に神あるべからず、

（御一体の天主ばかりを拜め）といふこと、是は御一体なる天主の他神はないから何ものでも他に拜むは云れぬほどな大罪であるといふことです、其ゆゑ寺詣神參や、佛壇神棚に物を供へ、或は香花を手向けるとか、社寺などの爲に金錢や品物を寄進すること、

第三十九圖

聖靈降臨

使徒信經第八條「聖靈

札、守、占、筮などを信ずることなどは、矢張皆僞の神に係ることですから眞の神なる天主を捨てると同じことにて輕い罪でなく皆重い罪はかりであります、

第二　汝主なる汝の神の名を妄りに呼ぶ勿れ、

（天主の聖い名を忘りに呼ぶなといふこと

是は天主の御名前までも至て尊いものだから妄りに呼ではならぬと禁じられたのです、依て積らぬこと、正しくないこと、或は僞でと、又は悪き誓ひ咒ひなどする爲に天主の名を呼むではなりませぬ、

第三　汝安息日を聖日とすべきことを覺ゆべし

（日曜日を守れといふこと

第四十三圖

是は一週間毎に一日丈手の業を止めて息まなければならぬといふのです、其は日曜日です、日曜日はイエズキリストが御復活なされ又聖靈が使徒等の上に降つた日ですから聖い日と定めたのです、然しながら此日に當て体むといふは徒に遊むで怠ける爲ではない、天主を拜み恩を謝すので格別ミサの祭を拜し祈禱の勤をする爲であります、

第四　汝父母を敬ふべし

（兩親に孝行せよ）といふこと

是は父母が子の爲めに天主の名代となり、又恩が多いから之を愛し敬ひ其正しい命令に從つて孝行せよと

第四十三圖

使徒信教第九條　聖公會

聖　公　會

第四十三圖

ふので、舊約聖書を見ると孝行の深い子は此世に於て天主から別段の御守護を蒙むり、後の世に於て終りない幸を受けます、孝行の子の立派な手本は第四十三圖の上の方に見る通り、イエズ、が三十歳に成るまでナザレト町に聖母マリアと養父の聖ヨゼフと共に住むで大工の仕事の手傳をして孝行を盡したことであります、又圖の下右の方にあるは聖ヨゼフの死んだところでイエズ、が格別に御心配なされたことを示すのです、斯くヨゼフはイエズ、とマリアの御心配を受けながら死んだから總て熱信を以て死にたい信者の守護の聖人にお成りなされました、圖の下左の方なるは舊約にある

はなしで少年トビアの聾なる親の目をヲフワエル大天使が現はれて開けるといふトビアスの孝行談ですが餘り長からぬには省きます、

此御掟の中には親が子に對しては、其子を愛し養い育て良い躾を爲眞の教に導くなどの勤も含むで居る、又子に對して無理に婚姻させ或は離縁させることは最も嚴しく禁じ之を背くは重い罪であるのです、

第五　汝殺す勿れ、

總て自分の生命を守る爲か或は戰爭などの他、人を殺すことを禁ずるので、此中には孕子を墮すこと、又は己と他人の靈魂にも肉体にも害をかけること、又怒、喧

第四十四圖

第四十一圖

使徒信經第十一條　肉身の復活

嘩、悪口、仇返なぞも含むで居る、舊約聖書に始めて人殺の大罪を犯した話があるが其罰はなか〳〵重い、それはアダム、エワが初めて産だ子はカイヌといひ、其次をアベルといふて此二人の男子が成長して後、兄のカイヌは弟のアベルの善心なるを嫉むで之を殺したるほどに嫌つた、或日此兄弟は第四十四圖の如く一所に郊外に出て寂しい所に往つた、其時カイヌは、不意にのしかゝつて弟のアベルを殺しました、時に天主は現はれて、カイヌよ汝はアベルを何うしたかと仰せられた、カイヌは悪い心で之に答へ、知りませぬ、私は弟の番人ですかといふた、天主は汝が何を爲たかは汝

の弟の血の聲が地から吾に叫ぶと仰せられた、其意味は彼の血が吾に其報ひをして貰いたいと願ふから、之を報ふるは吾の義であるといふことです、それゆゑ天主は又彼の血を呑むだ地の上に汝は呪はれて、住居は定まらず方々漂泊べしと仰せられました、之を以て見ると天主の目からは人殺はなか〳〵重い罪であります、

第六　汝姦淫する勿れ

（邪淫をするなと）いふこと

總て邪淫に係ることは何事も禁じます、淫猥ものや淫猥演劇を見たり、淫猥話を歌に聽いたり、又肉体を以て自分獨り又は他人と淫猥行をするなどは嚴しく禁じ

モイゼス十誡を示す

第一誡より第三誡に至るまで

られました、肉体の樂は婚姻した夫婦の間の他決して出來ませぬ、ソウして邪淫の罪にはすべて輕いはなくて皆重い、此罪は至て潔い天主の甚だ嫌ひ給ふ罪です、舊約聖書を見るとノエの時大洪水を以て八人の他世界の人間を殘らず滅ぼしなさつたのは邪淫の罪の爲です、又ソドム、ゴモルの二つの邑が滅びたのも矢張此罪の爲であつた、第七圖の說明に書いた通り三個の天使がアブラハムに現はれて天主の御告を傳へて後二天使は其近所のソドム、ゴモルにあるアブラハムの親戚なるロトといふ人の所に往き、汝は妻と子供とを連れて早く此所を去れ、此邑は邪淫が甚しいから天主は程なく

滅ぼし給ふと告げた、ソコデ第四十五圖の通りロトと其妻と二人の娘とは與に逃げました、すると間もなく天主はソドム、ゴモルの上に天から硫黄と火を雨らした、それで其邑に棲むで居る人々と其近所にある草や木までが殘らず滅びました、アブラハムは其翌日之を見たに此邑と近所から恐しい煙が立ち燼に成つて居りました、後は此邑の跡は恐しい海となり、其水には毒氣が有つて魚虫類が少しも居らず、又其海岸の近所にも小さい草までも生へず、鳥でさへ此海の上を飛び渡ることは出來ないはぞです、それで此海を死んだ海と名けました、猶太國の圖に死海とあるが此海です之に

第四十三圖

聖き御家族

第四誡

依て見ると邪淫は天主の大に嫌ひ給ふ罪で、時々は此世に於ても酷く罰されることがあります、

第七　汝偸む勿れ、

此御掟を以て總て他人の財産に損を掛けることを禁じた、偸、詐欺、高利貸、約束を破る、借りたものを返さぬ、他人の物を妄りに壞す、捧先を切る、法外の掛直に賣る、なぞのことは皆含むで居る、舊約聖書を見ると盜の罰はなか〳〵重つたです、其一つを擧げれば、或戰爭の時にアカンといふ人が敵の分捕品の中から何か偸むで隱しました、すると天主は其人と其人の財産を皆燒くべしと御命けなされた、依て猶太人は第四十

第四十四圖

アベル其兄ゟ殺さる
第五誡

六圖の如く見るも恐しき石打にして之を殺し其上之を燒きました、之を以て見ても他人の物に損を掛けるのは輕い罪でないことが分ります、

第八　汝僞證する勿れ

（僞をいふな）といふこと

此御掟は僞をいふこと又は裁判所に僞の證人となり、言行を以て故意と他人を瞞し、或は讒言、邪推、無實の咎を他人に被せる、理由なく人の落度、過失を言ひ觸すなどを禁じます、此第八の御掟に付て一番重い罪を犯した人間は相違なくポンシヨピラトの裁判所に僞を以てイエズ、キリストを愬へたもの共です、第四

第四十七圖

十七圖はイエズ、がピラトの前に引れて其周圍には教師等や多くの猶太人が口々にさま〴〵の無實の咎を云ひ立てる所です、其時イエズ、は何とも答へません、ピラトはイエズ、に對つて彼等が汝に對して立てる證據の多いのを聽かぬかといひました、けれどもイエズ、は未だ何も答へなかつた、ピラトは甚だ怪んで、猶太人等が嫉みによつてイエズ、を訴へたのであると知つたから何うか助けたいと思ふて、イエズ、を何う仕やうかといふた、其時極惡の猶太人等は、十字架に釘つけよといふた、ピラトいふ彼は何の罪あるかと、けれども益十字架に釘けよと叫んだ、ピラトは其たん〳〵

第四十五圖

邪淫の罰

第六誡及第九誡

ひざく騷ぐのを見て、此義い人を殺すは吾罪でない、汝等の被ぶるべき罪だと答へた、所が猶太人は其罪は吾等と吾等の子孫の上にまで被つて苦しくないと皆答へた、ソコで臆病なるピラトは、とう〳〵イエズ、を十字架に釘ける爲に彼等に引渡しました、此僞の證據を立てた猶太人の罪は歷史に依て見ると今日まで其子孫に罰が及んで居ると知られます、即彼等は其時から國が潰れて今に至る千九百年の間王も役人も權も無くて、其本國から漂ひ出て世界萬國に流浪して居ります、

第九　汝人の妻を戀る勿れ

（心にも邪淫を望むなといふこと

此御掟は第六と同じやふな意味で、邪淫の思ひ望みまでも禁ずるのです、イエズ、キリストが仰せられる凡そ猥淫心を以て女を視るものは、最早心の中に邪淫を爲たのであると、ですから天主の目から見れば行を以て犯すのも心ばかりで思ふも同じ罪であるのです、

第十　汝人の所有物を貪る勿れ

（人の物を欲しがるな）といふことと是は第七と同じやふな意味で、他人の財産を貪ることと即盜みたいとか又は無理にも儲けたいといふ心を起すことまでも禁ずるのであります、

第四十六圖

倫みの罰

第七誡及第十誡

○聖會の六誡

聖會はイエズヽキリストの名代で靈魂を司る權がある
から聖會で定めた六つの掟は守らねばならぬ、聖會に
背くは天主に背くに同じですが、然し之に大層な差ひ
がある、それは天主の十誡に背く理由は病氣でも達者
でも貧乏でも金持でも一つもない、十誡に背くよりは、
イツソ命を捨てる方がよいのです、却て聖會の六つの
掟は幼い時と極年寄て後と、病氣とか或は食べること
も出來ぬはどの貧乏、又靈父の居らぬ地などの如き據
ない妨げがあれば守らなくてもよいのです、
第一　守るべき祝日を聖日とすべし

（きまつた祝日を日曜日のやふに守れ）といふこと

第二　主日と祝日に謹んでミサを聽くべし

（日曜日と祝日にミサの祭を拜めよ）といふこと

第三　少くとも年に一度は必ず告解すべし

（いくら少くても一年に一度だけは是非悔悛の秘蹟を受けよ）といふこと

第四　少くとも年に一度御復活日の頃に聖体を領くべし

（いくら少くても一年に一度だけ御復活の祝日の前後一週間づゝの中に聖体の秘蹟を領